

小学校 (国際科) 実践報告

ユニセフの活動を知ろう

—'10 for 100' から学ぼう—

東京都港区立白金小学校の実践を、工藤美樹子先生に報告していただきました。



『「アフリカに井戸をつくろう」プログラム』（2007年夏にユニセフと企業が提携して行ったプログラム）で、アフリカのマリ共和国で、井戸作りに携わったユニセフ・マリ事務所のトゴタ・ソゴバさんをお迎えして、マリの国やユニセフの活動、井戸作りの様子などを全校の子どもたち（約700名）にお話していただきました（2007年11月30日）。

主な取り組み

児童会による
ユニセフの紹介と活動の説明



トゴタさんから
ユニセフの活動を学ぶ



ユニセフの募金活動を行う

児童会の子どもたちがユニセフについて調べ学習をしました。その内容を11月26日の全校朝会で全校の子どもたちに伝えました。

また、休み時間にもユニセフのビデオを放映したり、各学級でユニセフについて調べ学習を行ったりと、30日のトゴタさんの訪問に向けて準備をしました。



ユニセフの活動内容についての紹介

トゴタさんのお話

- 気温が45度にもなる、国土の約半分が砂漠の暑い国
- 文字を読める女性は10人に1人
- ハマダラ蚊に刺されてマラリアになってしまったり、メジナ虫が体内に入ってきたりして、亡くなる人がたくさんいること
- 清潔な水がないため、マリの人たちは汚れた水を飲み、そこから病気にかかってしまうこと
- 井戸を作る工程
- 井戸ができたときのマリの人たちの感動、などなど

子どもたちの驚きの声、真剣な学びの表情が感じられた1時間でした



映像やクイズで説明をするトゴタさん

トゴタさんからマリの土産を受け取る児童会の子どもたち



命を助けるお金だね



世界中の子どもが幸せになりますように

● 子どもの感想 ● ● ● ● ●

- ぼくはマリに行って、マリの人たちにきれいな水を飲ませてあげたいです。
- 気温が45度にもなる暑い国に、飲む水がなかったらとても困ると思います。病気にかかって死んでしまう子どもが多いことも初めて知りました。ユニセフは必要だと思いました。
- わたしもおとなになったらユニセフの仕事をして、たくさんの子どもの助けたいです。
- 生まれた場所によって生活が変わってしまうのは不公平だと思います。
- アフリカの人々はこんなにこわい目に遭っているのに、日本では一部の人以上は助ける活動をしていないというのにおどろきました。

● 「トゴタさんと仲良くする会」—工藤先生から ● ● ● ● ●

トゴタさんを2年生の教室にお迎えして、お手玉やあやとり、こま回し、学習、歌など、日本の文化を紹介したり、一緒にゲームをしたりして交流を深めました。「トゴタさんから、『友達になったから、みんなのことはずっと忘れないよ。』と言ってもらったことが心に残りました。」と感想を書いていた子どももいました。みんなの心が通い合い、心温まるひとときでした。子どもたちの心に素敵なプレゼントを

贈ってくださったトゴタさんに感謝の気持ちでいっぱいです。



写真は白金小学校よりご提供いただきました。